

横浜みなと博物館

横浜みなと博物館開館 30 周年記念企画展

「オドロキ！日本・海の環境と開発～海といつまでも」

開催期間：2019年7月15日（月・海の日）～2019年9月29日（日）



地球深部探査船「ちきゅう」模型、
同乗組員作業着の展示



企画展観覧の様子



関連事業「海のプロフェッショナルの
ミニトーク」



関連事業「海洋研究開発機構横浜研究所
見学会（一般向け）」

【企画展の内容・目的】

- 展示は、環境にやさしい船の研究開発、海のゴミの回収など日本の海で行われている環境保全の取り組み、また海底資源探査や海洋再生可能エネルギーの研究などを紹介しました。海にかかわる人々の努力や、日本の海には可能性があることを知っていただく機会としました。
- 関連事業は、展示を見て答える「海といつまでもクイズラリー」、「海洋研究開発機構横浜研究所見学会（親子向け、一般向け）」、協力団体による「MSCクイズイベント」、海にかかわる仕事をしている人のお話を聞く「海のプロフェッショナルのミニトーク」、会場内に記念撮影コーナーを設けた「海といつまでもスペシャル記念撮影会」を開催。参加しながら楽しく日本の海を学び親しむ多彩な事業を展開しました。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2019年7月15日（月・海の日）～2019年9月29日（日）
- 開催場所：横浜みなと博物館特別展示室
- 入場者数：12,522人



横浜みなと博物館 外観



企画展会場 入口



環境にやさしい船
「DRIVE GREEN HIGHWAY」模型



内航エコシップ模型の展示

「環境にやさしい船」のコーナーでは、近年、研究または建造された地球温暖化や省エネルギーに配慮した船の模型を6隻展示しました。あわせて、写真や映像、パネルなどで、環境保全に対応した船の設備について紹介しました。また、内航スーパーエコシップや、海運モーダルシフトの取り組みについて展示し、内航外航にかかわらず日本の海にかかわる人々が海の環境保全について取り組んでいることを紹介しました。展示している船舶模型は所蔵者の許可をいただきお客様に自由に撮影していただけるようにしたところ、多くの方が船舶模型の写真を撮り、また家族連れが模型とともに記念写真を撮影する様子が見られました。本コーナーの模型等の所蔵者の一部より関連事業「海のプロフェッショナルのミニトーク」の講師を派遣していただき、参加者がミニトーク後に展示を再度じっくりと見学し、知識を深めていく様子も見受けられました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



横浜港で採取されたゴミの展示
実際のゴミの展示も行いました



横浜の海の環境を守る取り組みを
写真や映像で紹介しました

「横浜の海をきれいにしよう！」の展示コーナーでは、当館が立地する横浜港のゴミの状況と環境保全活動について紹介しました。市民グループや自治体、研究施設、地域の小学校や働く人たちが協力し、楽しく活動している様子を写真や映像、模型などで展示しました。報道でマイクロプラスチック問題が多くとりあげられていたこともあり、横浜で行われている環境保全活動の展示は子どもにも大人にも関心の高いものでした。夏休みには小学生が本コーナーの展示をよく見てノートにまとめる様子が見られ、また高校生や大学生が学校へのレポート提出のため本展示を見学し、なかには担当学芸員に鋭い質問をする学生もいました。海の環境啓発用につくられた歌やダンスの映像には幼児がくぎ付けとなり、映像にあわせて踊る子どもたちもいて、和やかな雰囲気の中で横浜の海の環境について学ぶ展示となりました。



海底観測装置実機を実際の
使用時の写真とともに展示



研究開発中の海洋再生可能エネルギー
の紹介をしました

「海とともに生きていく」のコーナーでは、海底資源、海底資源探査技術開発、洋上風力や波力などの海洋再生可能エネルギー開発、日本人に欠かせない魚食への取り組みなど、日本で行われている最新の研究開発などを紹介しました。これから注目されるであろう海底資源や海洋再生可能エネルギーの紹介は、普段目にするものの少ない実物の資源や、調査船や水中ロボットの模型や観測装置実機、最新の研究開発紹介映像など、さまざまな形態の資料を展示して見学者が立体的に理解しやすいように努めました。また、深海底の地名や機器類の漢字名称にはルビをふるなど、見学された方の記憶に残るようにしました。暮らしに欠かせない魚食への取り組みは、横浜市内の小中学校が行っている学習をとりあげました。小学生と保護者がこの展示に足を止めてじっくりと見学し、親子で魚食について話し合う場面も見られました。

【来館者の声】

- 「海」は私たち 1 人 1 人が海を汚さないように、努力しなければならぬと思いました。
- 水産業についてなされている取り組みに興味をもった
- （深海に）あつまる石についてもっとしらべたいです。
- がんばって調査しているなと思いました。
- 開発も大事だが、海を汚さないように。いつまでも青い海を

2. 関連事業の内容

■MSC クイズイベント

【開催日時】2019年8月2日（金）10：30～16：00

【開催場所】横浜みなと博物館特別展示室前

【参加者数】30名

【目標・内容】

- 持続可能な漁業の普及に取り組むMSC（海洋管理協議会）による企画展関連イベント。クイズにこたえてMSCとその事業について学びました。



MSC クイズイベント実施状況



企画展会場前で実施しました

企画展にも資料をご提供いただいているMSC（海洋管理協議会）が実施。企画展の調査をきっかけに連携した事業の実施が決まりました。持続可能で環境に配慮された水産物を意味する「海のエコラベル」やMSC（海洋管理協議会）について、クイズを通して子どもたちに知ってもらうイベント。参加者にはMSCグッズのプレゼントもあり、楽しく漁業について学ぶ機会となりました。

【参加者の声】

- 持続可能な漁業を応援する取り組みがされていることに驚きました。
- 「海のエコラベル」はスーパーで見たことがあったけれど、内容がわからなかったなので、今回知ることができてよかった。
- がんばっている漁師さんを応援したい。

■海のプロフェッショナルのミニトーク

【開催日時】2019年8月6日（火）～8日（木）

11:00～12:00、13:30～14:30

8月9日（金）、10日（土）、14日（水）～16日（金）

13:30～14:30

【開催場所】横浜みなと博物館特別展示室

【参加者数】246名

【目標・内容】

- 海にかかわる仕事をしている方々に、仕事や活動、また日本の海への思いをお話しいただきます。海の仕事や学び、親しんでいただく機会としました。参加された子どもたちにはより効果的に学んでもらうツールとして記録用のワークシートをお渡ししました。



特別展示室内で実施したミニトーク



ワークシートに記入する子ども

多分野で活躍する11人の講師においでいただき、ご自身が取り組んでいる海にかかわる仕事や、航海士の生活、クルーズ船、練習船、海の環境や開発への取り組みなどについて日替わりでお話しをしていただきました。20代から50代の講師のみなさんは、対象となる小学生向けに工夫して資料を作成され、やさしくお話しをしてくださいました。お話し後は質疑応答を行い、たくさんの質問が参加者から寄せられました。また講師と記念撮影をする子どもや、講師にお礼として歌を歌われる大人の参加者もあり、和やかで楽しい時間となりました。ミニトークに複数回参加される方もいらっしゃいました。企画展会場内での実施のため、お話し後は展示を再度見学される方もおられ、より一層展示の理解が深まったと思われます。参加する子どもにはワークシートとえんぴつをお渡ししたところ、記録したワークシートを持ち帰る子どもが多数見受けられました。大人の参加者も多く、子どもから大人まで幅広い年代の方々が、海の仕事や取り組みに親しむ機会となりました。本事業は展覧会の資料調査をきっかけに各団体にご出演依頼をさせていただいたところ、どの団体も大変快く講師を派遣してくださいました。講演後、講師のみなさんから「また別の機会があれば参加したい」とのお話しもいただき、新たな関係を構築することができました。今後のより一層充実した博物館活動のきっかけとなった事業となりました。

本事業には、参加者募集について横浜海洋少年団、横浜市子ども会連絡協議会の協力をいただきました。

海の プロフェッショナルの ミニトーク

海にかかわる活動をしている方々に、仕事や活動、また日本の海への思いをお話しいただきます。
参加されるお子さまには記録用のワークシートをさしあげます。
えんぴつと下敷きをもって、横浜みなと博物館特別展示室へGO!

対象＝主に小学生（大人の方もご参加いただけます） 会場＝横浜みなと博物館特別展示室
参加費＝入館料のみ（小・中・高校生・65歳以上100円、一般200円）

※企画展のみの見学料金です。 ※横浜みなと博物館常設展示室の単館券（小・中・高校生200円、65歳以上250円、一般400円）、
帆船日本丸との共通券（小・中・高校生300円、65歳以上400円、一般600円）でも参加できます。 ※毎週土曜日は小・中・高校生は共通券が100円の特別料金になります。

8月6日(火)	11:00~12:00	航海士になるまで（実際の訓練の様子）
公益財団法人帆船日本丸記念財団	指導部 二等航海士	片山 湧造（かたやま ゆうぞう）
8月6日(火)	13:30~14:30	日本丸の当時の航海と現代の船について
公益財団法人帆船日本丸記念財団	指導部 一等航海士	田中 識啓（たなか のりひろ）
8月7日(水)	11:00~12:00	ブルーカーボンってなに？
横浜市温暖化対策統括本部	横浜ブルーカーボン担当	村井 豪太（むらい ごうた）
8月7日(水)	13:30~14:30	外航船の航海士の仕事
日本郵船株式会社	二等航海士	益田 耕司（ますだ こうじ）
8月8日(木)	11:00~12:00	国内クルーズ船に乗ろう！
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	共有船舶建造支援部 課長	峰本 健正（みねもと たけまさ）
8月8日(木)	13:30~14:30	海の豊かさを守ろう！「魚は、好きですか？神奈川のお魚の話」
横浜丸魚株式会社	マーケティング部 次長	齋藤 融（さいとう とおる）
8月9日(金)	13:30~14:30	海運の大切さ・船乗りの魅力
株式会社商船三井	一等航海士	宮田 竜二（みやた りゅうじ）
8月10日(土)	13:30~14:30	私が水中ロボットを仕事にするまで
国立研究開発法人海上技術安全研究所	研究員	稲葉 祥悟（いなば しょうご）
8月14日(水)	13:30~14:30	横浜の海を知ろう、海を身近に感じよう
横浜市環境科学研究所	調査研究担当	潮田 健太郎（うしおだ けんたろう） 浦垣 直子（うらがき なおこ）
8月15日(木)	13:30~14:30	自動車でのアマモを植える取組について <small>きれいな海・たくさん生き物が暮らせる環境を目指して</small>
海洋プランニング株式会社	調査員	石川 竜子（いしかわ りょうこ）
8月16日(金)	13:30~14:30	身近な海（東京湾）の環境保全について
海上保安庁海洋情報部	環境調査官	中村 梓（なかむら あずさ）

※講師のみなさんのプロフィールをホームページに掲載します。こちらませひご覧ください。

交通＝JR根岸線、市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車、またはみなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅下車 いずれも徒歩5分



横浜みなと博物館

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-1-1 帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体
TEL 045-221-0280 (代表) FAX 045-221-0277 <https://www.nippon-maru.or.jp/>

【来館者の声】

- 講師の方のファンになりました。
- クルーズ船に乗ってみたいです。
- アマモの話が面白かったです。

■海といつまでもスペシャル記念撮影会

【開催日時】2019年9月3日（火）～28日（土）10:00～17:00

【開催場所】横浜みなと博物館特別展示室

【参加者数】約3000人

【実施内容・目的】

- 海洋研究開発機構様のご協力で、会場に大型出力した「しんかい6500」の画像2種を期間を変えて展示し、記念撮影スポットとしました。作成したSNS風のボードの利用とあわせて、帰宅後の家族や友人との会話やインターネットを通じた企画展の情報拡散を期待しました。



しんかい6500とSNS風ボードを設置した記念撮影コーナー



中学生グループの記念撮影
スタッフが入館者の撮影をお手伝いしました

展示の見学だけでなく、展示を記憶と記録にとどめていただく、またSNS等からの企画展の情報拡散を期待して、特別展示室内に子どもにも大人にも人気のしんかい6500の画像を背景とした記念撮影スポットを設置しました（海洋研究開発機構協力）。画像は2種類作成し1画像を2週間ずつ展示しました。あわせてSNS風ボードも作成したところ、子どもも大人もボードを使って楽しんで撮影をする様子が見られました。会場スタッフが積極的にお客様とコミュニケーションをとり、撮影をおすすめしたり、記念撮影のお手伝いをしました。撮影されたお客様には、「お家に帰ったら家族にお見せしてくださいね」「SNSに投稿してくださいね」などとスタッフからお声がけをし、記念品として特製ステッカーを差し上げたところ、お客様に大変喜んでいただきました。撮影そのものを楽しむ、またスタッフとのコミュニケーションを楽しむことができ、本展により一層よい印象を持っていただけたと思います。

【来館者の声】

- しんかい6500がかっこよかった。
- 友達と一緒に写真がとれて記念になった。楽しかった。
- すてきなステッカーが記念になりました。

■海洋研究開発機構横浜研究所見学会（一般向け）

【開催日時】2019年9月11日（水）9：45～11：30

【開催場所】海洋研究開発機構横浜研究所

【参加者数】20名

【目標・内容】

- 海洋研究開発機構横浜研究所を見学し、海の研究施設の役割、そこで行われている仕事や働く人たちについて学びます。一般の方々を対象に実施しました。



横浜研究所の概要説明



水圧実験を撮影する参加者

海にかかわる研究施設「海洋研究開発機構横浜研究所」の一般向け見学会を実施しました。研究所を職員の方のご案内で見学し、海と地球の自然環境、深海調査、また横浜研究所の仕事についてのお話を伺いました。平日の実施ではありましたが、10代の大学生から80代まで、幅広い年齢層の方々が参加され、みな熱心に見学し、研究所スタッフへも質問をしていました。参加者からは「なかなかここまで来ることはないので、良いチャンスをいただきました」「海がもっと身近なものに感じられるようになりました」「（海が）私達の生活に深く関わっていることを実感した」などの感想が寄せられました。

【参加者の声】

- （よかった見学場所や内容）地球シミュレータ、しんかい6500、海底地震計、圧力実験
- 海というより、地球について色々な研究を見せていただき、どんな研究をしているか、どういう方向性でいるかを説明いただけ、今後の興味を広げられると思えました。
- 地球環境の大切さ。今、地球がこわれていくようだ。

■海といつまでもクイズラリー

【開催日時】2019年9月16日(月・祝)、9月29日(日)
9:30~15:00

【開催場所】横浜みなと博物館常設展示室、特別展示室

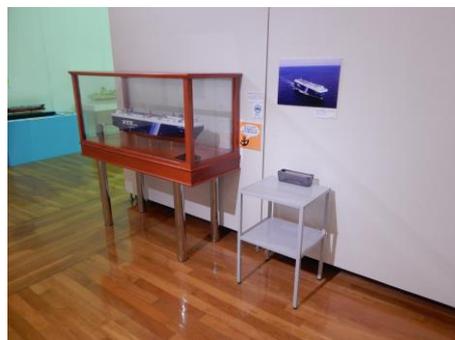
【参加者数】702名

【目標・内容】

- 横浜みなと博物館常設展示室、ライブラリー、特別展示室をめぐって海の環境保全や海洋開発などについてのクイズに答えます。子供も大人も参加できます。展示を見ながらクイズに答えることで、展示内容についてより印象に残るとともに、家族や友だちと海について話すきっかけとしました。



館内ライブラリーのクイズ問題
設置状況



環境にやさしい船の模型からクイズを出題

横浜みなと博物館常設展示室、ライブラリー、企画展会場をめぐり、展示をよく見て回答するクイズラリーを実施しました。参加賞として企画展特製ステッカーを配布。海の環境や開発に関するクイズを出題し、子どもも大人も参加ができるようにしたところ、幼児から大人まで幅広い年代層の方々が海のクイズを楽しみ、海について学びました。クイズの問題や答えについて家族や友だち同士で話し合っている様子もみられました。また、ライブラリーでは、海の環境保全や開発に関する図書から出題し、クイズを解いたあとも海の本を読んでいる参加者が見受けられました。クイズの答え合わせには、帆船日本丸友の会の会員にボランティアとして協力していただきました。

【参加者の声】

- お父さんと相談しながらクイズをして楽しかった。
- (問題のヒントとなった) 未来の海洋開発の本がおもしろかった。
- (クイズの問題となった) エコシップマークを初めて知った。

【事業全体のまとめ】

本企画展は、海的环境保全や海洋開発について最新の情報を展示しました。まさに継続中の事業について紹介するため、文献等での資料調査が難しいものでしたが、熱心に海的环境や開発に取り組みられている団体や個人の方々が多く、企画展開催に大変協力していただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

海のプラスチックゴミ問題、地球温暖化対策などがマスコミなどでクローズアップされるようになり、タイムリーな企画展となりました。展示では、環境に配慮した船舶、海底資源探査に使用される船舶の大型模型や水中ロボット模型、海底観測装置の実機、海洋再生可能エネルギーやメガフロート開発のジオラマ模型などを借用、展示することができました。解説や写真だけでなく、多くの立体的な資料を展示したことにより来館者の大きな関心を得ることができたと思います。

展示を見るだけでなく、記憶と記録に残るように展示に関連するパンフレットやチラシなどを精力的に集め、会場内に設置しました。また、目玉となる資料は写真撮影を可能とし、お客様に自由に撮影していただきました。帰宅後に改めて見返して、本企画展を思い起こしていただけたと思います。

関連事業でも多くの団体の協力を得て実施することができました。2回実施した海洋研究開発機構見学会では、参加者から「海を大切にしたい」「深海の過酷な状況がよくわかった」などの感想をいただきました。11回実施した「海のプロフェッショナルのミニトーク」では、多彩な講師に海で行われている取り組みや仕事についてお話ししていただきました。企画展会場内で実施した小さな会でしたが、講師と参加者の距離が近く、楽しくなごやかな雰囲気で行うことができました。海の取り組み、仕事について参加者に良い印象をもていただけたと思います。終了後、ミニトークの講師の方から「こうした機会があればまた声をかけてほしい」と言われ、大変うれしく思いました。MSC（海洋管理協議会）様とは新たな連携が生じ、イベント実施につながりました。クイズラリー、スペシャル記念撮影会は誰でも気軽に楽しく参加できるもので、こちらも来館者に展示会の良い印象を持っていただくことができたと思います。

反省点としては、海的环境保全や開発などの最新の情報をかみ砕いて上手に文章として説明することが難しく、報道機関等に記事にしてもらいやすいプレスリリースができず、結果的に掲載件数が伸びなかったことがあげられます。入館者数目標は達成しましたが、見学されたお客様には好評だったので、掲載数が増えれば更なる入館者数増につながったかと思います。

展示、関連事業全般にわたって多くの団体や個人の方々にご協力いただいて実施ができました。展示終了後に図書を寄贈してくださったり、情報提供されるなど新たな連携関係が生まれたことは今後の博物館活動への大きな財産となっていくと思料されます。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 国立研究開発法人海洋研究開発機構	資料の貸し出し、見学会実施
2. 横浜市立幸ヶ谷小学校、みなとみらい本町小学校	写真の展示協力、企画展告知協力
3. 横浜市教育委員会	企画展と関連事業の告知協力
4. 一般社団法人横浜みなとみらい21	資料の貸し出し、関係団体の紹介
5. 海事関係企業、団体（多数）	資料の貸し出し、関連事業協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 広報よこはま	6月号 海洋研究開発機構横浜研究所見学会
2. 朝日新聞 夕刊	7月9日 美術館博物館 企画展紹介
3. 週刊 観光経済新聞	7月20日 横浜みなと博物館 開館30周年で企画展が開幕
4. Kazi	9月号 これからの日本の海について考えよう 横浜みなと博物館で企画展開催中
5. 神奈川新聞	8月15日 ハマの海 守ろう みなと博物館 環境科学研が講演
6. エコチル 横浜版	10月号 横浜みなと博物館 企画展開催報告

以上